

東南アジア研究センター 昭和40年度第4・四半期報告

東南アジア研究センターの、昭和41年1月から3月にいたる昭和40年度第4・四半期の活動状況を、ここに要約報告する。

調査研究計画の社会科学部門のうち、タイ国地域調査は前期にひきつづき、本岡武教授・飯島茂助手・水野浩一研修員（東南ア研）および矢野暢研修員（法）、マレーシア地域調査は前田成文大学院学生（文）でもってつづけられ、矢野研修員は南タイの回教村落の定着調査を終えた。また、教育班の森口兼二助教授（教育）および宗教班の藤吉慈海助手（人文科研）は研究を終えて帰国し、政治班の神谷不二教授（大阪市大）は東南アジアの軍政機構研究のため現地に滞在している。

自然科学部門では、前期にひきつづき調査研究中の農業生産班土壌学研究の川口桂三郎教授・久馬一剛助手（農）、植物栄養学研究の福井捷朗大学院学生（農）、および生物班植物学研究の田川基二助教授・岩槻邦男助手・福岡誠行大学院学生（理）・北川尚史講師（奈良学芸大）が帰国した。西川義正教授（農）はタイを中心とする東南アジア畜産、医学班の美濃口玄教授（医）は天野義彦助手（医）とともに、北タイにおいてフッ素の歯におよぼす影響の調査を行った。また西占貢教授（医）は岡田誠太郎助教授（医）とともに、前年にひきつづきタイにおけるライ病の調査研究にあたり、とくに小児ライにかんする研究をすすめた。

養成計画では1966年留学生として、野口英雄大学院学生（工）がインドネシア建築の研究のため追加採用された。チュラロンコーン大学留学中の桂満希郎大学院学生（文）は昨年10月、外務省寄贈のタマサート大学日本研究講座の講師になった。若い諸君がこうした新しいポストをうることはセンターの発展だと思われる。

出版計画としては、おくれていた『東南アジア研究』第3巻第3号、また一昨年9月のマラヤ稲作シンポジウムの英文報告、*Rice Culture in Malaya, Symposium Series No. 1*が刊行された。センターの学術報告書である *Reports on Research in Southeast Asia* の出版がはじまったことを特筆したい。その *Natural Science Series N-1* として、佐藤孝教授（兵庫農大）の *Field Crops in Thailand* の発刊をみた。

図書資料整備計画のうち、まず HRAF が整備されたが、現在センターの資料室も着々充実されてきている。

いま、東南アジア研究計画の第3年度を終るにあたって、予定どおり、調査研究がすすみ、その成果がつぎつぎ発表されるにいたったことを嬉しく思う。

なお、2年後にはじまる第2期5カ年計画の設定のために、わたくしはこの1月東南アジア諸国を歴訪した。また、3月には四手井綱英教授（農）が石井米雄助教授（東南ア研）をともなって、現地ラボラトリー設立計画検討のために、タイ・マレーシアを訪問した。われわれは、これから第1期5カ年計画の仕上げをはかるとともに、第2期5カ年計画への準備に積極的にとりかかる。いっそうの御支援をお願いするしだいである。

1966年3月

京都大学東南アジア研究センター所長

岩 村 忍